全国学力・学習状況調査

「中学校英語」IRTを用いた結果返却について

目　次

1 全国学力・学習状況調査で用いるIRTについて

2 令和８年度「中学校英語」のIRT分析結果について

本資料は**令和８年度全国学力・学習状況調査「中学校英語」**におけるIRTを用いた測定・結果の概要をまとめたものです。

より詳細なIRTの仕組みや結果の見方等については、以下のURLの資料を参照してください。

関連URL

・令和８年度　全国学力・学習状況調査　報告書・調査結果資料
https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/
　※IRTについては、「令和8年度 全国学力・学習状況調査 報告書【中学校／英語】全体版」のP10、P22等をご参照ください。

・提供資料とその見方
https://www.nier.go.jp/edsc/edp/_uploads/2026/08/26data_03.pdf

・個人票の見方リーフレット
https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/26meng_mikataleaf.pdf

解説動画

・全国学力・学習状況調査におけるIRT入門
https://youtu.be/KZ3Q-pgMYlc
・IRTバンド別類型割合グラフの読み取り方
https://youtu.be/X-WYjNNfEHs
　※上記の解説動画は、国立教育政策研究所「教育データ活用講座」に掲載されています。

1 全国学力・学習状況調査で用いるIRTについて

IRTとは何か

IRTとは

IRTとは、国際的な学力調査（PISA、TIMSSなど）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFLなど）で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較できます。

IRT(Item Response Theory：項目反応理論)
児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。

全国学力・学習状況調査にIRTを導入するメリット

① **調査日の複数設定**が可能になる。各児童生徒が**異なる問題を解く**設計にできる。

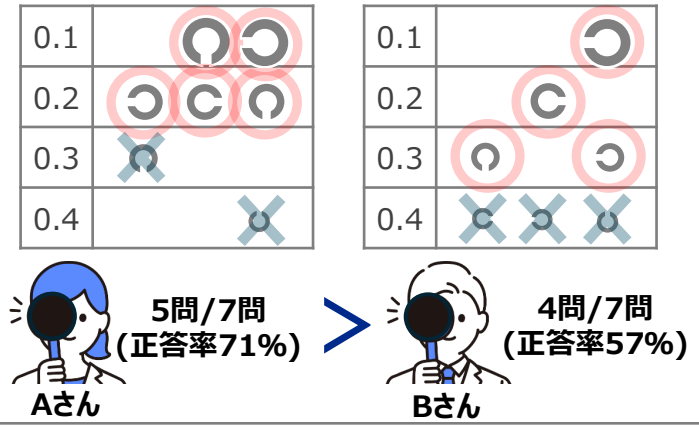
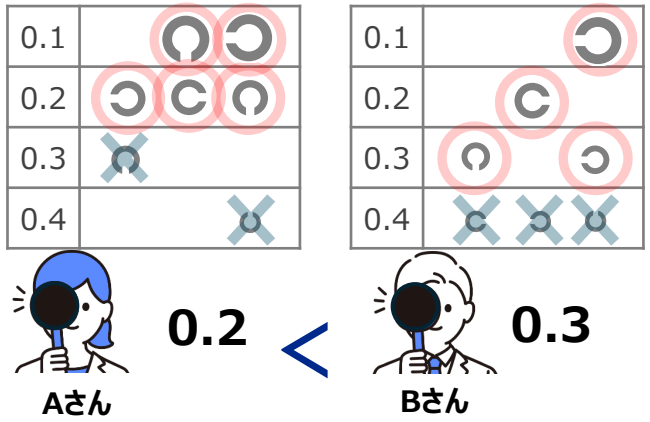
② 今まで以上に多くの問題を使用し、**幅広い領域・内容等での調査**が可能になる。

③ **学力の経年変化**を各教育委員会・学校でも把握できる。

IRTに基づく調査のイメージ

視力検査を例としたイメージ

※イメージを表すことを目的として作成したため、示された７つのランドルト環の大きさ（難しさ）がAさんとBさんで異なっている。

	素点方式（正答数・正答率）	IRT方式
得点(スコア)の表現方法	**何個のランドルト環（ C ）** を見ることができたか	**どの大きさのランドルト環（ C ）** を安定的に見ることができたか
得点(スコア)の例		

素点方式の場合は、Aさんの方が正答数（見ることができたランドルト環の数）・正答率が高くなります。

IRT方式の場合は、Bさんの方がスコア（視力）が高くなります。

全国学力・学習状況調査におけるIRTスコア・IRTバンドについて

IRTスコア

IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、**500を基準にした得点**で表すものです。

（各教科にCBT・IRTを導入する年（中学校理科：R7、中学校英語：R8、国語、算数・数学：R9）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。）

IRTバンド

IRTスコアを**1～5の5段階**に区切ったものです。３を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

（各教科にCBT・IRTを導入する年（中学校理科：R7、中学校英語：R8、国語、算数・数学：R9）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。）

※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

※IRTバンドをIRTスコアに換算すると、およそ以下のような対応関係になります。

IRTバンド	1	2	3	4	5
IRTスコア範囲	~350	350~450	450~550	550~650	650~

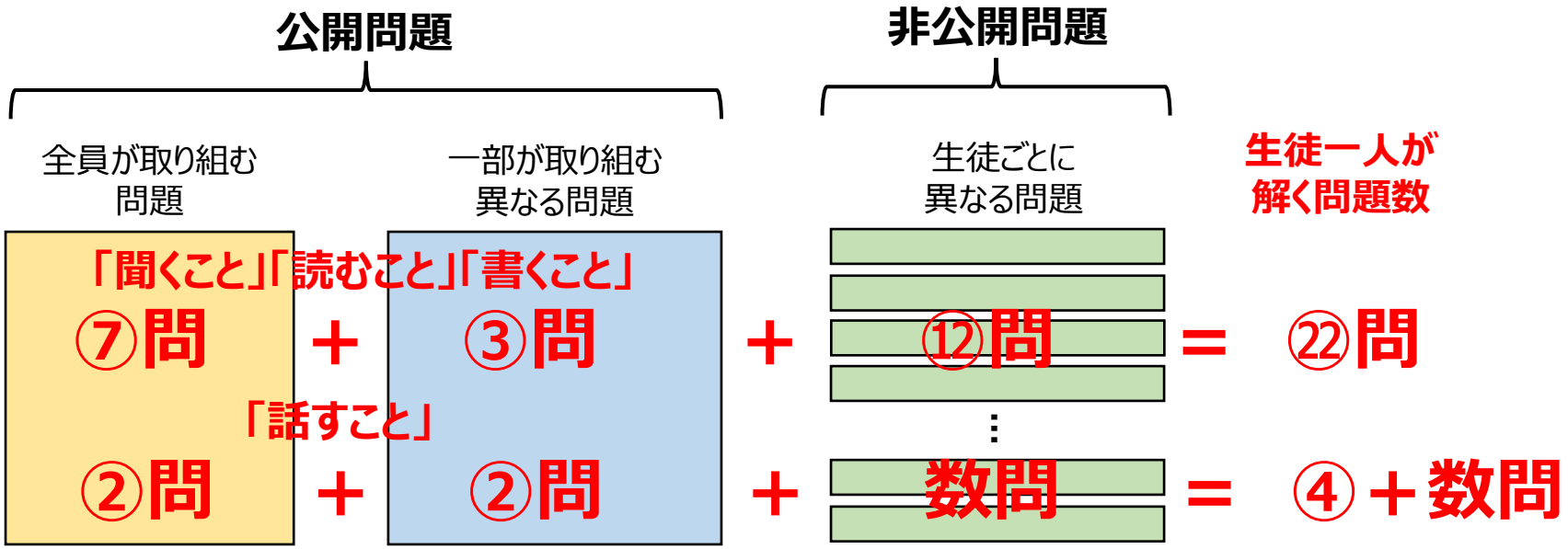
※非公開問題は、国や自治体等の状況を把握することを主目的とする出題です。このため、個々の問題の内容や正誤はフィードバックされませんが、IRTスコア・IRTバンドの算出に使用されます。

2 令和８年度「中学校英語」のIRT分析結果について

令和８年度調査「中学校英語」の問題の構成

問題構成について

- 生徒一人が解く問題数は下記のとおりです。
- 公開問題には調査対象の生徒全員が取り組む問題と一部の生徒が取り組む問題があります。
- 一部の生徒が取り組む問題については、同じ学校でも当該問題に取り組む生徒と取り組まない生徒がいますが、学校の生徒全員ですべての公開問題に取り組む設計としています。
- 非公開問題は幅広い内容・難易度等から出題され、生徒ごとに異なる問題を解いています。



「中学校英語」 IRT分析の結果

※　IRTスコア及びIRTバンドについては、4技能のデータを基に算出した全国値を掲載している。

IRTスコア全国結果

	平均IRTスコア	第３四分位（75%）	第２四分位（50%）	第１四分位（25%）	標準偏差
全国(国公私)	499(※１)	575	498	422	108.1(※２)

(※１)IRT 分析では 500 を基準として各生徒のスコアをそれぞれ算出しています。平均IRTスコアは、算出された各生徒のスコアを足し合わせて平均をとったものであるため、500 に一致するとは限りません。

(※２)理想的な正規分布(データが平均の付近に集積するような分布)となった場合、標準偏差は100となりますが、実際の各生徒のスコア状況により変動します。

IRTバンド全国結果

IRTバンド	1	2	3	4	5
IRTスコア換算(※3)	~341	342~448	449~556	557~663	664~
割合(%) (※4)	6.4	27.1	36.2	24.7	5.7

(※3) IRTバンドは、生徒ごとに算出したIRTスコアを等間隔に区切って設定しています。IRTバンドは、生徒ごとに算出したIRTスコアを等間隔に区切って設定しています。令和8年度調査では、4技能IRTスコアの標準偏差（108.1）を基にバンド幅を設定しています。2回目以降の中学校英語についても、令和8年度に設定したIRTバンドの基準を用いる予定です。

(※４)IRTバンドについて、理想的な正規分布となった場合、３が約38%、２・４が約24%、１・５が約７%となりますが、実際の各生徒のスコア状況により変動します。

「中学校英語」 結果返却のポイント

1 学校（自治体）ごとの結果を、500を基準とするIRTスコアで表示します。

学校の結果

	生徒数	IRTスコア
貴校	*人	508
全国	*人	499

市町村・都道府県教育委員会の結果

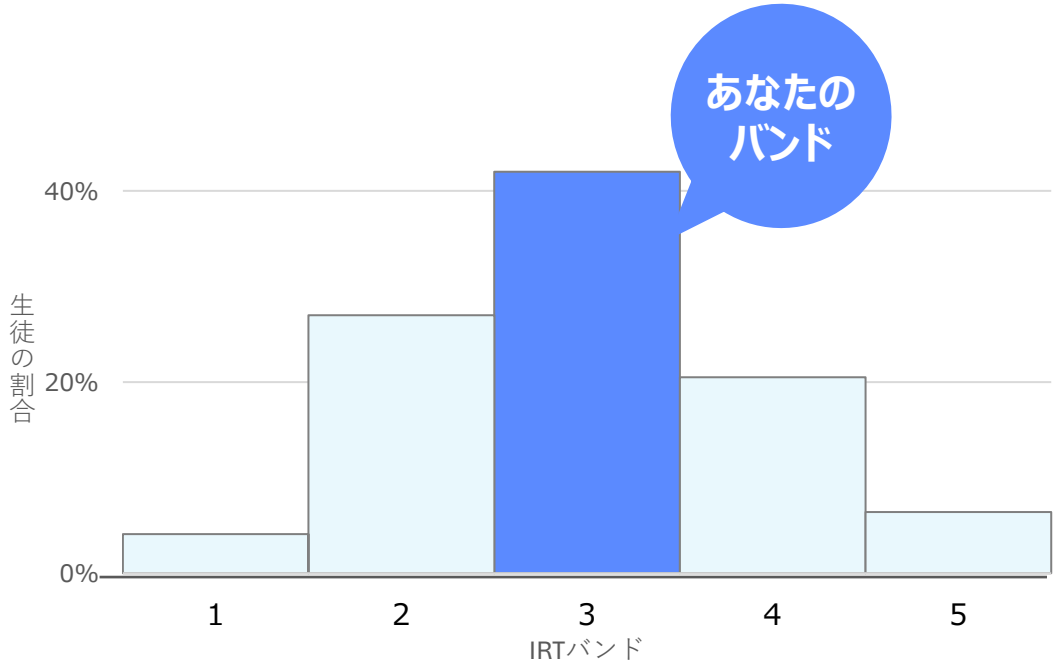
	生徒数	IRTスコア
●●市教育委員会	*人	509
■■県教育委員会	*人	507
全国	*人	499

※令和8年度調査「中学校英語」の4技能の全国平均IRTスコアは499です。2回目以降も、令和8年度調査と同じIRT尺度を用いる予定です。

2　個人の結果は５段階の IRT バンドで表示・返却します。

個人の結果

・3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。



※IRTバンドは、各生徒に対して出題された問題の正誤状況に基づき総合的に推定されるもので、学習評価で用いる評定とは異なります。また、IRTバンドは教科全体についてのみ示され、問題の分類（学習指導要領の領域、評価の観点、等）別には示されません。

令和８年度全国学力・学習状況調査「中学校英語」学校に返却される帳票

※本資料に掲載された問題の内容、平均点、IRTスコア等は実際に出題されたものとは異なります。

調査結果概況

令和８年度全国学力・学習状況調査　　中学校調査

調査結果概況　［英語４技能］　※英語「話すこと」は当日・期間内実施合算

C150290045070中学校ー生徒

・以下の集計値／グラフは、次の実施日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。
４月20日～４月24日（英語３技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）　４月24日～５月29日（英語「話すこと」）
（「全国（国公私立）*」の値は、統計的に抽出され、英語４技能を当日に実施した学校の生徒の結果を集計したもの。）
※ただし、英語３技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」において４月20日から４月24日に調査を実施していない学校については、４月27日以降５月１日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

	生徒数	平均正答数	標準偏差
C150290045070中学校	46	4.9 / 9	
■■■■■■（公立）	359	4.7 / 9	
全国（国公私立）*	2,180	5.1 / 9	2.1

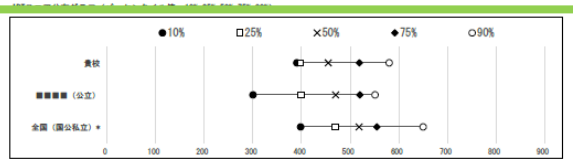
公開問題正答数

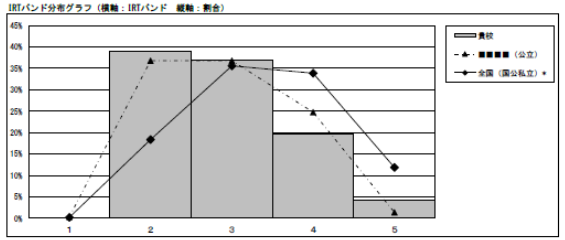
	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
C150290045070中学校	0.7 / 2	2.6 / 5	1.5 / 2
■■■■■■（公立）	0.7 / 2	2.5 / 5	1.5 / 2
全国（国公私立）*	0.8 / 2	2.8 / 5	1.5 / 2

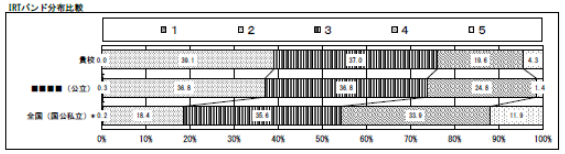
	平均IRTスコア	標準偏差	パーセンタイル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
C150290045070中学校	469	75.8	390	398	455	519	580
■■■■■■（公立）	468	71.4	300	399	470	520	551
全国（国公私立）*	519	91.6	398	470	518	555	650

IRTスコア

IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。







IRTバンド集計

IRTバンド	貴校	貴校	■■■■■■（公立）	全国（国公私立）*
5	2	4.3	1.4	11.9
4	9	19.6	24.8	33.9
3	17	37.0	36.8	35.6
2	18	39.1	36.8	18.4
1	0	0.0	0.3	0.2

IRTスコアやバンドの分布

学校において、学力がどのように分布しているかを示します。

問題別調査結果

問題の難易度

令和８年度全国学力・学習状況調査　　中学校調査

公開問題別調査結果　［英語「話すこと」］　※当日・期間内実施合算

C150190020730中学校ー生徒

・以下の集計値は、４月24日から５月29日に実施した調査の結果を集計した値である。
（「全国（国公私立）*」の値は、統計的に抽出され、英語「話すこと」を当日に実施した学校の生徒の結果を集計したもの。）
※正答率欄のイタリック（下線付き）の数値は「予測正答率」を表す。ここでの「予測正答率」とは、貴校で出題されなかった公開問題について、全国の解答状況に基づき、貴校各生徒と同程度の英語４技能で算出したIRTスコアにおいて期待される正答率を指す。
※「予測正答率」や「問題の難易度」を示す対象としない問題については空欄となっている。

問題別集計結果（公開問題）

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域 (1)聞くこと	(2)読むこと	(3)話すこと（やり取り）	(4)話すこと（発表）	(5)書くこと	評価の観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	問題形式 選択式	短答式／口述式	記述式／口述式	正答率(%) 貴校	全国（国公私立）*	無解答率(%) 貴校	全国（国公私立）*	問題の難易度	対象生徒数 貴校	全国（国公私立）*
１５（１）	電話でのやり取りの中で、避ぶ約束をしている留学生に明日の天気を伝える	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる			○※			○				○		89.7	81.7	0.8	0.2	3	126	2,234
１５（２）ｂ	電話でのやり取りの中で、避ぶ約束をしている留学生からの質問を聞き、明日しようと思っていることを伝える	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる			○※			○				○		95.7	88.1	0.0	0.2	3	70	1,247
１５（２）ｃ	電話でのやり取りの中で、避ぶ約束をしている留学生に自分の家に来てもらうように依頼する	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる			○※			○				○		80.4	64.4	0.0	0.2	3	56	987
１６	留学生と一緒にしたいことを１つ取り上げ、その理由を話す	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる				イ			○				○	86.0	70.8	2.3	0.4	3	43	747
１７	自分の好きな人物を１人取り上げ、好きな理由を話す	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる				イ			○				○	82.0	0.0	0.0	0.0	3	39	746
１８	自分のまちを訪れるのにおすすめの季節を１つ取り上げ、その理由を話す	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる				イ			○				○	64.1	0.0	0.7	0.2	3	44	741
１９	学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す	社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる				ウ			○				○	70.5	0.8	0.2	0.2	3	126	2,234

※「学習指導要領の領域」における「○」は、五つの領域別の目標に分類されない「知識及び技能」を示している。

正答率

各公開問題について、貴校で実際にその問題が出題された生徒の正答率を示しています。なお、貴校の生徒に一人も出題されなかった公開問題については、IRTに基づき推定した「予測正答率」を、イタリック（下線付き）で示しています。

※中学校への提供資料については、国立教育政策研究所公教育データ・プラットフォーム内の動画にて詳しく説明しています。右記URLの動画をご参照ください。https://www.nier.go.jp/edsc/edp/seminar/#kaisetsu

令和８年度全国学力・学習状況調査「中学校英語」個人票

令和８年度全国学力・学習状況調査【中学校】調査結果

学校名	答案番号							組	氏　名
三角区立さんかく中学校	1	2	3	4	5	6	7	99	

英語

４技能　IRTバンド
3
全受検者の平均的な理解度
3

※IRTバンドは、1～5の5段階で5が最も高い。

聞くこと」、「読むこと」、「話すこと［やり取り］」、
表］」、「書くこと」によるコミュニケーションを図る資質・能力を身に付けて
み る問題を出題しています。

●全受検者の状況（IRTバンドごとの生徒の割合）　あなたの結果

50%
40%
30%
20%
10%
0%
1　2　3　4　5

	問題の内容	結果※2	全国の正答率（%）	学習指導要領の領域※3 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)	評価の観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	問題形式 選択	短答・口述	記述・口述	問題の難易度※4
	注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものを選択する	－	99.9	★					★			★			3
2	ショッピングセンターでのアナウンスを聞き、行くべき階を選択する		99.9	★						★		★			3
3	学校見学についての説明を聞き、行くべき場所を選択する	×	99.9	★						★		★			3
4	職場体験についての発表を聞き、その後に示される3枚の絵を体験した順になるように選択する	－	99.9	★						★		★			3
5	住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを選択する	○	99.9	★						★		★			
6	文章を読み、グラフの空所に入る学校行事を選択する	×	99.9		★				★			★			3
	誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を選択する	×	99.9		★					★		★			3
	友達からのメッセージを読み、相手が示した条件に合うウェブサイトを選択する		99.9		★					★		★			3
			99.9		★					★		★			3

IRTバンド*（上：生徒／下：全受検者平均）

個人の結果を５段階で示します。
IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

* 生徒の正誤状況から推定した結果であり、評定とは異なります。

IRTバンド（全国の人数分布）

IRTバンドごとの生徒の分布を示しています。

問題の難易度*

５段階で表示します。非公開問題も含めた正誤状況に基づいて分析し、事後的に付与したものです。
例えば、難易度３の問題はIRTバンド３の生徒がおおよそ（約８割の確率で）正答できると推定されます。

*事前に設定したものではありません。

公開問題の正誤

生徒が解いた公開問題について結果が表示されます。生徒に割り当てられていない問題は結果が空欄になります。

* 「個人票の見方リーフレット」を国立教育政策研究所HPに掲載しています。
以下URLの資料をご参照ください。
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/26kekkahenkyaku.html

「中学校英語」IRTに基づく結果の活用・指導

- 国からは、報告書等において、公開問題（一部）について、全体の解答状況(類型別反応率)に加えて、
  ・G-P分析図（次ページ参照）を活用したIRTバンドごとの解答状況に特徴が見られた問題の分析
  ・上記の分析を踏まえた授業改善の例
  ・質問調査と組み合わせた分析結果
  などを示しています。

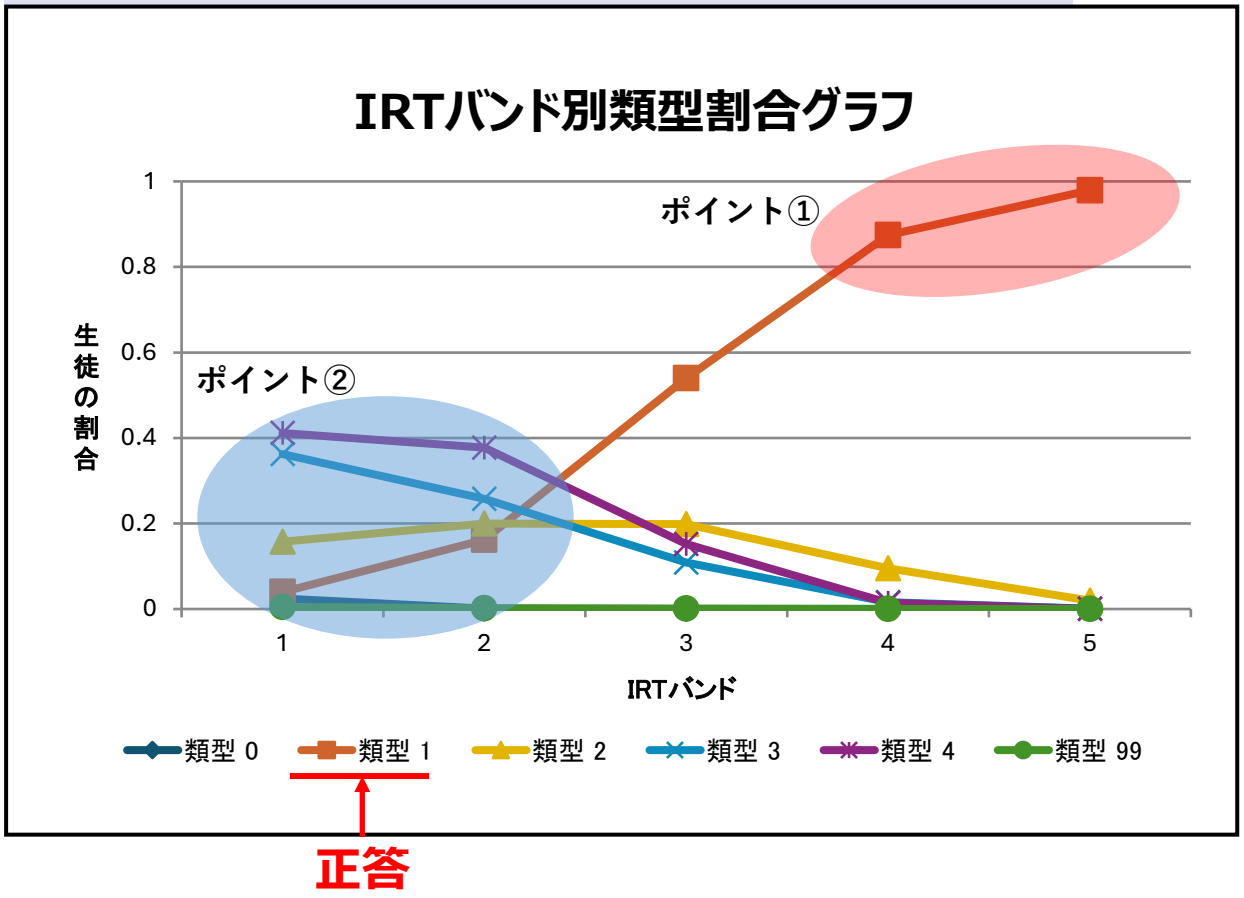
- 各学校においては、これまで同様に公開問題の正誤状況をもとに個々の生徒の課題を把握するとともに、新たに返却される各学校におけるIRTバンドの分布と、IRTバンドごとの解答状況に特徴が見られた問題の分析を照らし合わせながら、「個に応じた指導」の更なる充実に向けた取組を推進してください。

- 調査当日に各生徒に出題されなかった問題も含め、すべての公開問題はMEXCBT上で取り組むことができます。正答率も参考にしながら、学習状況の把握や振り返り、調査以降の学習成果の確認等にご活用ください。

【参考】IRTバンド別類型割合グラフ（IRTバンドに基づいたG-P分析図）

※全国学力・学習状況調査結果に基づく「IRTバンド別類型割合グラフ（IRTバンドに基づいたG-P分析図）」では、横軸は受検者の学力レベル（5 段階の IRT バンド）を表し、縦軸は IRT バンドごとの各解答類型に属する生徒の割合を表しています。

全国学力・学習状況調査結果に基づくIRTバンド別類型割合グラフの例



ポイント①

IRTバンド４に属する生徒の約９割、IRTバンド５に属する生徒は約10割が正答している。

IRTバンドが高いほど正答する生徒の割合が増えており、IRTバンド４以上に属する生徒はおおむねこの問題を通して測っている資質・能力を身に付けていると判断することができる。

ポイント②

IRTバンド１、２に属する生徒は、正答する生徒の割合が２割に満たず、一定の生徒が類型２、３、４と誤答している。

誤答の類型２、３、４の内容を分析することで、IRTバンド１、２に属する生徒の課題を把握し、特に留意して指導すべき事柄がわかる。